

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800078		
法人名	有限会社 ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	福岡県久留米市城島町江上上657-2		
自己評価作成日	平成25年11月8日	評価結果確定日	平成26年1月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4077800078-00&PrEfCd=40&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ほのぼのので暮らす方々が、穏やかに過ごす事ができ毎日笑顔で暮らせるような支援を心掛けてるよう努力しています。また、「ここに来て良かった」と思ってもらえるような支援に取り組んでいます。病院が併設でない為、医療面の不安をなくすよう家族の方との連絡・報告を密にし信頼関係を大事にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームほのぼの」は城島町と大木町の境にあり、周囲を田畑に囲まれた自然豊かな環境にある2ユニットグループホームである。隣接して、法人が運営する障害者の通所施設もあり、ユニットの一部は以前障害者のグループホームとして利用されていた物を改築して使われている。入居者が笑顔でいる事を基本にして、不安を取り除くケアを心がけ、ちょっとした変化も見逃さないよう、気配り、目配り、心配りを大事にしている。隣接する施設とも協力しあい、イベント見学や職員同士の交流、避難訓練なども一緒に行う。広い園庭には天然芝が綺麗に整えられ、桜や藤の花も咲き、運動や散歩にも活用される。誕生日もその日にその人だけのお祝いをし、職員は入居者一人一人の一日一日を大切に、笑顔で楽しんでもらう事を心がけており、理念の通り「その人らしい人生」を送ってもらう支援を行っている。これからも笑顔のサービスの広がりが地域にもつながっていくことが、大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員には、入社時に文章を手渡し理解して頂くようにしている。又、ユニットに掲げいつでも全職員に目が入れる事ができ意識付けができるようにしている。	開設時に施設長、管理者の主要メンバーで作成した4つの基本理念があり、ユニットのリビングやスタッフルームに掲示されている。「その人らしい人生」を送ってもらうことを大事にし、毎月のミーティングで伝えることもあり、常に目にする事で意識づけている。「地域とのつながり」も開設時から大切に取組んでいる。	開設時から職員が代わってきたこともあり、改めて話し合いの機会を持たれることや、会議、申し送り時の唱和、名札の裏や目につきやすい掲示などを検討してはどうだろうか。また、理念を具体的な実践理念や行動指針に落とし込むことでより一層反映につながることも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・「子供110番の家」に加入している。 ・地域の行事(ウォークラリー・お祭り)への参加。 ・散歩等へ出掛けの際に近所の方への挨拶や雑談を行う事により、コミュニケーションを図っている。	小中学校の職場体験の受け入れや、地域で開催されるウォークラリーには利用者も一緒に参加している。地域の敬老祭「江上祭」が今年から始まり、隣接するデイサービスの場所提供や、協賛、見学も行った。日頃は公民館長が地域情報を持ってきてくれており、近くを通る学生とは気軽にあいさつを交わしている。	地域行事への関わりを様々に持っているが、日常的な町内会活動の情報を収集し、加入を含め取り組むことで、地域への情報発信につながることに期待したい。隣接するデイサービスと共同することで、勉強会、相談会、夏祭りなどを企画されてはどうだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・小・中学生の職場体験の受け入れを行なっている。 ・地域の敬老会時の場所の提供を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、家族・地域の方に参加して頂き、近況報告を行い、話し合いを行い助言を頂きサービスの向上に繋げている。	会議には地域包括、行政、老人会長、区長、家族代表が参加し、入居者情報や行事報告なども行っている。地域情報を頂いたり、アドバイスを貰うこともあり、写真報告の取り組みにつながっている。以前は他事業者の会議に参加したこともあった。議事録は職員間で共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の職員・包括の職員御方に運営推進会議に参加して頂き、ホームの様子を伝えたり、助言を頂いている。又、問題・疑問点がある時は速やかに電話にて相談しアドバイス等を頂いている。	市の担当とはグループホーム協議会などで関わる事もあり、運営推進会議にも毎月参加されている。会議以外にも電話で相談なども行い、書類提出などで窓口へ訪問もしている。近くにある支所でも手続きは出来るが、本庁に行くと各担当課と接点を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加したり施設内で定期的研修を行い全職員が日常的のケアの中で実践出来るように努めている。	玄関は施錠せず、夜間のみ防犯のため施錠する。外出要望のある時は見守りや付き添いで周囲を散歩したり、気の済むように自由にしてもらう。身体拘束の例もなく、センサーも利用していない。事例を扱って内部研修も毎年行っており、機会がある時は外部研修にも参加するがここ1、2年はされていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり施設内で定期的研修を行い全職員に学ぶ機会を設け又、ミーティングの際に話し合いの場を設けるようにし、職員のストレスの軽減を図っている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等を収集し施設内外での研修に用いて全職員が学ぶ機会を持ち理解出来るようにしている。	現在、日常生活自立支援を使うようになった方もおり、関係機関と協力しながら対応に至った。以前も制度利用された方がおり、内部研修によっても情報を共有し、外部研修に参加した際は研修報告書を作成して回覧している。主にケアマネージャーが担当するが、職員も一般的な理解をもっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改訂の際は、文章を用いて直接家族と話し場の場をもち、理解・納得して頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族や他者からの意見が聞けるようにしている。 支払い時には、直接家族と合い相談・意見が聞けるようにしている。	支払いを現金払にすることで毎月面会の機会を作っており、直接意見を聞き取っている。運営推進会議でも外部と話す機会があり、以前は家族会を開いたこともあった。家族を招いた行事が年に2回あり、その場が家族同士の交流の機会にもなっている。	意見箱の設置はあるが、活用されていなかったため、入れやすい設置場所、記入用紙の配布などで利便性を高めた活用をしてはどうだろうか。また、市の介護相談員を活用する事で、新たな意見が引き出されていくことにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のペースで職員のミーティングを行い、意見交換が出来る場を設けている。	パート職員も含めて全員が参加するミーティングがあり、入居者の情報や意見交換がなされている。休憩の取り方に関する意見が反映され改善につながったこともある。全員に発言機会が与えられるように考えられ、誰でも意見は出しやすい。必要があれば上長と個別に相談もしやすい雰囲気を作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の環境に見合った就業が出来るよう努めている。又、各自が向上心を持って働けるよう職員の意見に耳を傾け、環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別等は問わず、人柄や介護に対する意欲を重視し、個人の能力が発揮出来るよう努めている。又、意識向上を目指して、資格取得が出来るよう配慮している。	未経験でも意欲を見て採用し、高卒で入社した職員もおり、男女とも10～60歳代の職員が能力や適性を見て配置され、入社後資格取得した職員もいた。研修の案内も行われ、希望も出して勤務として参加している。職員はそれぞれが、レク、物品、美化、研修などの役割をもっており、年代を問わず協力し合って業務にあたっていた。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に施設内外で高齢者の人権を中心に研修を行っている。 ミーティングの際にも、言葉使い・接し方等について話し合いの場を設けるようにしている。	虐待防止などに関連して資料を使って研修しており、昨年は外部研修にも参加し、伝達も行った。事業所内での情報も共有し、入居時から排他的だった性格の入居者への関わりにも全体で取り組んで実践にもつなげてきた。	法人としての人権教育・啓発活動への取組として、外部研修の参加や、関連団体の資料貸し出しや講師派遣などを活用した活動が行われていく事に期待したい。

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加出来るような環境作りを行なっている。又勤務等で参加出来なかった職員に対しては、報告書を閲覧出来るようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会で行われる研修等に参加し他事業者と交流・意見交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば面談を行い、入居に対しての不安を取り除けるよう配慮している。入居者に対しては、日々の話しに耳を傾け、信頼関係を築き不安の解消・悩み要望等を話して頂けるよう配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に話し合いの場を設け、家族の要望・不安を聞き取る事が出来るよう努めている。又、入居後も受診結果や近況の報告を行うようにする。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りが可能な方は、ご本人より聞き取りを行い、聞き取り困難な方は御家族より聞き取りを行い、ご本人・御家族が望まれる支援に添えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見つけ出し、役割を得ることで利用者の自信へとつなげられるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、外出、外泊等ご本人・御家族の希望に柔軟に対応し、面会時には近況の報告をし今後の支援等について話し合いの場を持っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には誰でも気兼ねすることなく来訪できるような雰囲気作りを心掛けている。在宅時疎遠になっていた親類の方が面会に来られるようになった。	家族やそれ以外の関係者からも生活歴を聞き取っており、兄弟を訪ねたり、自宅に連れて行ったりもする。個別ケアや少人数でも、外出の折に思い出の場所を通りすぎったり、家族にも協力を依頼して屋敷に連れ行ったり、病院のお見舞いなど、これまでのつながりを大事に支援している。	

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り利用者が孤立しないで皆さんが楽しく生活出来るような環境づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方へ年賀状を送ったり、病院へ面会へ伺ったりしている。入院により退居された御家族より近況の手紙が届くこともあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向が聞き取る事が可能な方は聞きとり、本人より聞き取りが困難な方は御家族より希望・意向を聞いたり、日常生活の様子や表情より検討している。	日頃のケアの中でも様子をよく捉え、声かけをして不安などを読み取っている。担当制により職員がアセスメントを行い、半年ごとの定期的に見直し、ケアマネージャーが補足している。日々の状況からも情報を追加していき、レク時の反応やちょっとした表情から、本人がおだやかに暮らせるようなケアに努めている。	認知症状の重い方などに対して、センター方式の活用を検討している。導入として、初めは担当者や対象者を決めて、一部分から利用していくことで、徐々に、スムーズな活用につながっていくことに期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族より聞き取り情報収集に努めている。入居後も面会に来られた知人の方等から聞き取り把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、体調管理等を介護日誌へ記入することで全職員が毎日の状態把握ができるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、ご本人・家族の意向に沿った介護計画ができるよう支援している。	ユニット全員分の記録を一つのファイルで管理し、プランの実施項目をナンバリングすることで簡易的に記録と連動させて共有を図っている。職員は担当制でアセスメント、毎月のモニタリング、プランの素案作成まで行う事もある。担当者会議には家族や医師の参加もあり、見直しに反映させる。日々のスケジュールを予め記録項目に落とし込む事で記録が簡略化されわかりやすくなり効率化につながった。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌とケアプラン実施記録を1日分でまとめ、職員間での情報の共有が出来る様にし、介護計画の見直しの際には活用できるようにしている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等家族が付き添えない時は、ホームの方で付き添いを行ったり、個人の必要な物品等がある時は、家族へ連絡し購入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買物へ行ったり、地域の祭りに参加し地域の方とコミュニケーションを築けるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、本人又は家族の希望を聞き、かかりつけの病院を希望される方は、希望される病院での医療を受けられるよう支援している。	希望する主治医を継続出来るが、提携医に変える方も多い。提携医の場合は毎月の往診があり、それ以外でも医療相談に応じている。通院介助は家族に協力してもらいが、事業所でも支援しており、医療情報はその都度共有している。家族が通院介助する際はバイタル表を渡して報告に役立てている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の雇用が無い為ホーム長、管理者への連絡を密にとり、報告相談を行うようにしている。又、受診時にかかりつけ医師、看護師等に相談を行うようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いへ行き、利用者が安心が持てる様心掛けている。又、担当医師や看護師から状態等を聞き情報を得て早期の退院ができるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方が出た時は、家族の方と話し合いの場を設け、ホームで出来る事を説明し理解して頂くよう努めている。又、ミーティングにおいて職員間で支援の方法を話し合うようにしている。	今までに看取った例はないが、余命宣告された方を間際まで支援した事がある。提携医は夜間緊急対応もしており、以前ターミナルの勉強会を行った事もあった。家族とは必要時に方針の説明・同意・意思確認をしており、将来的には、職員とも話し合った上で受け入れも検討している。	今後のターミナルの受け入れに備えて、職員や家族の不安にどのように対応するかの話合いや、事業所方針の作成、定期的な研修体制などが進められることに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回定期的に消防署に依頼し、心肺蘇生法の講習会を行っている。新入職員に対しては、消防署が行っている、講習会への参加を促している。又、ホーム内の研修において事故防止について研修を行っている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもと夜間想定避難訓練、消火訓練を行っている。又、その際には地域の消防団・住民(区長・老人会長・民生委員)への参加を促し協力を促している。又、水害・地震についての研修を行っている。	年に2回の防災訓練は夜間を想定し、消防署にも立ち会ってもらっており、職員それぞれに対応が身に着くよう、担当を変えて同日に2回ずつ行った。地域の方も毎回参加してもらえ、連絡網にも入ってもらっている。スプリンクラーなどの防災設備も整い、隣接施設にAEDの設置もあり、備蓄として3日分の水や食料が確保される。新人にも夜勤時に指導し、非常時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内の研修にて人権・プライバシーについての研修を行い、職員間で人権・プライバシーが守られているか話し合う場を設け、職員への認識がもてるよう努めている。	慣れ親しんでもらいながらも、礼儀との兼ね合いには配慮し、相手に合わせた呼びかけ方に気をつけている。ミーティングや日頃のケアの見直しでも注意、指導を行い、他施設の事例なども用いながら話し合っている。職員同士でもその都度気付いた時に注意しあう。写真の利用は事前に同意をもらった方のみに留めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・身だしなみ等で本人の希望が聞かれる時は、本人の希望に添えるよう努めている。散髪は訪問散髪を活用し本人の散髪の有無、髪型の自己決定をして頂けるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを把握し、その方の意欲的な行動を見守りながら、本人のペースにあった支援ができるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣、頭髪の乱れに気掛け、時にはお化粧品をして女性らしく過ごして頂けるよう努めている。男性の方には、髭剃りの声掛け・介助をおこなっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきはや下ごしらえ、茶碗拭き等、利用者の能力に合わせて、できる事をお手伝いして頂いている。また、家で使った茶碗で食事されてある方もいらっしゃる。食事の好みも、その日の体調・メニューで希望があれば柔軟に対応している。	メニュー作成や食材手配は業者に委託しており、調理は職員が行っている。菜園で採れた収穫物を使ってアレンジすることもあり、希望がある時は別メニューを作ったり臨機応変に個別対応などもしている。調理レクとしてお好み焼や団子汁を作る事もあり、普段も下ごしらえや皮むきなど手伝ってもらったこともある。職員も一緒に食卓について会話しながら食事を楽しんでいった。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者を利用し、栄養バランスを考慮している。また、本人にあった食事形態や食事量を考慮し配膳している。食事量・水分量はチェックシートを用いて量を把握できるようにしている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケア・風邪予防の為に塩水うがい習慣となっている。洗面所までの拒否がある方は、その時の状況に合わせてうがい・口腔ケアを実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて定期的な誘導、排泄間隔、排便の有無のチェックを行っている。日中は、出来るだけ布パンツで過ごして頂けるよう努めている。以前、紙パンツだった方が布パンツへ移行する例もあった。	入居者それぞれの状況に合わせて、間隔や時間を決めて誘導し、排泄チェック表に記載している。日中はトイレ誘導を基本とし、自分で出来る事は自分でしてもらう。見守りや付き添いに、声かけによって排泄動作が改善して紙オムツから布パンツに改善した方もいる。日頃から職員がミーティングなどで意見を出し合い、積極的に試行してパットやオムツの見直しもしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、運動・水分摂取を促している。また、野菜の切り方を工夫し食物繊維が多くとれるよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日ではあるが、夏場は1日シャワー浴追加にて入浴を行っている。希望があればその都度のユニットバスでの入浴支援を行っている。基本2人ずつの入浴を行っており、その際は気の合うペアでの入浴を心掛けている。個別での入浴を希望される方は個別入浴を実施している。	一人週2、3回の入浴を午前から午後にかけて行っており、順番なども希望に応じて対応し、1人から2人で入浴をしている。入浴を拒まれる方には状況に合わせて足浴や清拭などで保清し、相手に合わせた支援を行っている。浴槽も入浴毎に適宜清潔を保ち、日によっては入浴剤や季節の柚湯、菖蒲湯なども楽しんでもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体力に応じて昼夜逆転が生じないよう昼間の休息の時間を考慮している。また、消灯時間はあるが、好きなTVを見て休まれたり眠れない時は職員とお茶を飲みながら談話して気持ちが落ち着いてから休んで頂くよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容がわかるよう、個人ファイルとお薬手帳にまとめている。処方の変更があった場合は個人日誌・申し送りにて把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器拭き等を利用者状態・意欲に合わせて役割を持っていただいている。また、気候が良い時は散歩や買物等で気分転換を図っている。月1回の行事を行い楽しみが持てる様支援している。		

自己・外部評価表H25(GHほのほの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じ、散歩や買物等へ出掛けられる様支援している。また、日常より会話の中で懐かしい場所や行ってみたい所を聞き取り、受診の行き来でその場所を通ったり寄ったりしている。	外食レクに年1、2回行くほか、暖かい時期には花見や、ドライブなども行い、毎月でも何らかのグループ外出を行っている。日常的にもスーパーに買物に行ったり、散歩に行ったりと、車イスの方や外出意欲に乏しい方にも働きかけて外出を楽しんでもらっている。個別の希望でも衣服を買いに行ったり、病院のついでにドライブすることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる方は、ご本人が財布を持たれている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある時は、自由に家族へ電話が出来るよう支援し家族からの電話もいつでも取り次ぎできるようにしている。家族宛に年賀状を送られる方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の窓からは、田んぼや植物を見て季節の移り変わりを眺める事ができる。テーブルには季節の花を置いたり壁には季節感のある壁飾りや壁紙にて季節感を取り入れている。利用者に合わせた温度調整や臭いに対しての配慮を行っている。	Aユニットは平屋建て、Bユニットは以前障害者のグループホームだった建物を改築した2階建てである。リビングの天井は高く、開放的であり、一角には小上がりの和室スペースもあり、休憩にも使われている。フローリングの床はワックスがけもされて綺麗にされており、掃除もよく行き届いていた。天気の良い日はウッドデッキに出たり、広い園庭での散歩も出来る。全体的に明るい色で、木の温かみを感じられる作りになっており、広さに余裕がありながらも家庭的な雰囲気に満たされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にベンチを置き、両ユニットから行き来でき、その場所で外を眺めながら談話したり、体操される方もいらっしゃる。畳のスペースで談話されることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使ってあった家具や品物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごして頂けるような支援に取り組んでいる。	使い慣れた木製ベッドや、タンス、テーブルなどを持ち込んで、自宅のような住み慣れた空間をそのまま持ってきている。収納スペースも設けられ、各部屋非常に片付いていた。家族写真が一面に貼られたり、思い思いの部屋づくりが楽しまれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを設置し、自力歩行の手助けができるようにしている。又、トイレや居室の入り口には解りやすい表札等を用いている。		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入職員には、入社時に文章を手渡し理解して頂くようにしている。又、ユニットに掲げいつでも全職員に目が入れる事ができ意識付けができるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	・「子供110番の家」に加入している。 ・地域の行事(ウォークラリー・お祭り)への参加。 ・散歩等へ出掛けの際に近所の方への挨拶や雑談を行う事により、コミュニケーションを図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・小・中学生の職場体験の受け入れを行なっている。 ・地域の敬老会時の場所の提供を行なっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行い、家族・地域の方に参加して頂き、近況報告を行い、話し合いを行い助言を頂きサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の職員・包括の職員御方に運営推進会議に参加して頂き、ホームの様子を伝えたり、助言を頂いている。又、問題・疑問点がある時は速やかに電話にて相談しアドバイス等を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の研修に参加したり施設内で定期的研修を行い全職員が日常的のケアの中で実践出来るように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加したり施設内で定期的研修を行い全職員に学ぶ機会を設け又、ミーティングの際に話し合いの場を設けるようにし、職員のストレスの軽減を図っている。	

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレット等を収集し施設内外での研修に用いて全職員が学ぶ機会を持ち理解出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改訂の際は、文章を用いて直接家族と話し場をもち、理解・納得して頂くようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、家族や他者からの意見が聞けるようにしている。 支払い時には、直接家族と合い相談・意見が聞けるようにしている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のペースで職員のミーティングを行い、意見交換が出来る場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の環境に見合った就業が出来るよう努めている。又、各自が向上心を持って働けるよう職員の意見に耳を傾け、環境・条件の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別等は問わず、人柄や介護に対する意欲を重視し、個人の能力が発揮出来るよう努めている。又、意識向上を目指して、資格取得が出来るよう配慮している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的に施設内で高齢者の人権を中心に研修を行っている。 ミーティングの際にも、言葉使い・接し方等について話し合いの場を設けるようにしている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加出来るような環境作りを行なっている。又勤務等で参加出来なかった職員に対しては、報告書を閲覧出来るようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会で行われる研修等に参加し他事業者と交流・意見交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に可能であれば面談を行い、入居に対しての不安を取り除けるよう配慮している。入居者に対しては、日々の話しに耳を傾け、信頼関係を築き不安の解消・悩み要望等を話して頂けるよう配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に話し合いの場を設け、家族の要望・不安を聞き取る事が出来るよう努めている。又、入居後も受診結果や近況の報告を行うようにする。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りが可能な方は、ご本人より聞き取りを行い、聞き取り困難な方は御家族より聞き取りを行い、ご本人・御家族が望まれる支援に添えるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見つけ出し、役割を得ることで利用者の自信へとつなげられるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時間、外出、外泊等ご本人・御家族の希望に柔軟に対応し、面会時には近況の報告をし今後の支援等について話し合いの場を持っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には誰でも気兼ねすることなく来訪できるような雰囲気作りを心掛けている。以前勤められていた同僚の方が定期的に面会に来られる方も居られる。又、病院受診の際待ち時間を自宅で過ごされる方もおられる。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り利用者が孤立しないで皆さんが楽しく生活出来るような環境づくりに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方へ年賀状を送ったり、病院へ面会へ伺ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向が聞き取る事が可能な方は聞きとり、本人より聞き取りが困難な方は御家族より希望・意向を聞いたり、日常生活の様子や表情より検討している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族より聞き取り情報収集に努めている。入居後も面会に来られた知人の方等から聞き取り把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの1日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、体調管理等を介護日誌へ記入することで全職員が毎日の状態把握ができるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、ご本人・家族の意向に沿った介護計画ができるよう支援している。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の介護日誌とケアプラン実施記録を1日分でまとめ、職員間での情報の共有が出来る様にし、介護計画の見直しの際には活用できるようにしている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等家族が付き添えない時は、ホームの方で付き添いを行ったり、個人の必要な物品等がある時は、家族へ連絡し購入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへ買物へ行ったり、地域の祭りに参加し地域の方とコミュニケーションを築けるよう努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される際に、本人又は家族の希望を聞き、かかりつけの病院を希望される方は、希望される病院での医療を受けられるよう支援している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の雇用が無い為ホーム長、管理者への連絡を密にとり、報告相談を行うようにしている。又、受診時にかかりつけ医師、看護師等に相談を行うようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いへ行き、利用者が安心が持てる様心掛けている。又、担当医師や看護師から状態等を聞き情報を得て早期の退院ができるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方が出た時は、家族の方と話し合いの場を設け、ホームで出来る事を説明し理解して頂くよう努めている。又、ミーティングにおいて職員間で支援の方法を話し合うようにしている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回定期的に消防署に依頼し、心肺蘇生法の講習会を行っている。新入職員に対しては、消防署が行っている、講習会への参加を促している。又、ホーム内の研修において事故防止について研修を行っている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもと夜間想定避難訓練、消火訓練を行っている。又、その際には地域の消防団・住民(区長・老人会長・民生委員)への参加を促し協力を促している。又、水害・地震についての研修を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内の研修にて人権・プライバシーについての研修を行い、職員間で人権・プライバシーが守られているか話し合う場を設け、職員への認識がもてるよう努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事・入浴・身だしなみ等で本人の希望が聞かれる時は、本人の希望に添えるよう努めている。散髪は訪問散髪を活用し本人の散髪の有無、髪型の自己決定をして頂けるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを把握し、その方の意欲的な行動を見守りながら、本人のペースにあった支援ができるよう努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣、頭髪の乱れに気掛け、時にはお化粧品をして女性らしく過ごして頂けるよう努めている。又、ヘアカラーを要望される方にはヘアカラーの支援を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきはや下ごしらえ、茶碗拭き等、利用者の能力に合わせて、できる事をお手伝いして頂いている。また、家で使ってあった茶碗で食事されてある方もいらっしゃる。食事の好みも、その日の体調・メニューで希望があれば柔軟に対応している。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者を利用し、栄養バランスを考慮している。また、本人にあった食事形態や食事量を考慮し配膳している。食事量・水分量はチェックシートを用いて量を把握できるようにしている。水分制限がある方は、コップに印を付け水分制限に努めている。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケア・風邪予防の為に塩水うがいは習慣となっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて定期的な誘導、排泄間隔、排便の有無をチェックを行っている。日中は、出来るだけ布パンツで過ごして頂けるよう努めている。以前、紙パンツだった方が布パンツへ移行する例もあった。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、運動・水分摂取を促している。また、野菜の切り方を工夫し食物繊維が多くとれるよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日にはあるが、夏場は1日シャワー浴追加にて入浴を行っている。希望があればその都度のユニットバスでの入浴支援を行っている。基本2人ずつの入浴を行っており、その際は気の合うペアでの入浴を心掛けている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体力に応じた昼夜逆転が生じないように昼間の休息の時間を考慮している。また、消灯時間はあるが、好きなTVを見て休めたり眠れない時は職員とお茶を飲みながら談話して気持ちが落ち着いてから休んで頂くよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容がわかるよう、個人ファイルとお薬手帳にまとめている。処方の変更があった場合は個人日誌・申し送りにて把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器拭き、花の水やり等を利用者状態・意欲に合わせて役割を持っていただいている。また、気候が良い時は散歩や買物等で気分転換を図っている。月1回行事を行い楽しみが持てる様支援して。		

自己・外部評価表H25(GHほのぼの)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に応じ、散歩や買物等へ出掛けられる様支援している。家の事が気になる方には家族の了承を得て自宅までの外出の支援を行ったこともある。また、日常より会話の中で懐かしい場所や行ってみたい所を聞き取り、受診の行き来でその場所を通ったり寄ったりしている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる方は、ご本人が財布を持たれている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望がある時は、自由に家族へ電話が出来るよう支援し家族からの電話もいつでも取り次ぎできるようにしている。遠方に居られるお友達から定期的に電話がある方もおられる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の窓からは、田んぼや植物を見て季節の移り変わりを眺める事ができる。テーブルには季節の花を置いたり壁には季節感のある壁飾りや壁紙にて季節感を取り入れる。利用者に合わせた温度調整や臭いに対する配慮を行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅にベンチを置き、両ユニットから行き来でき、その場所で外を眺めながら談話したり、体操される方もいらっしゃる。畳のスペースまで来られ談話されることもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使ってあった家具や品物を持ち込んで頂き、居心地よく過ごして頂けるような支援に取り組んでいる。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを設置し、自力歩行の手助けができるようにしている。又、トイレや居室の入り口には解り易いよう表札等を用いている。		